

南箕輪村の一般会計財務書類 4 表の概要（平成 28 年度決算）

■「統一的な基準」により作成

貸借対照表（BS）

●村の保有する学校、道路、現金などの資産がどれだけあり、その資産がどのような財源（負債、純資産）で形成されているかを表す財務書類です。

資産合計……357 億円

これまでに形成された道路・学校などの施設や基金・現金など、将来世代に引き継ぐもの。

【内訳】

固定資産……331 億円

- ・有形固定資産（土地・建物など）
- ・無形固定資産（ソフトウェア・権利など）
- ・投資その他資産（出資金・基金など）

流動資産……26 億円

（現金、財政調整基金、未収金など）

うち、歳計現金……4 億円

負債合計……57 億円

借入金（村債）や将来支払う職員の退職手当など、将来の世代が負担する債務

純資産合計…300 億円

これまでの世代が既に負担してきた金額

（純資産＝資産－負債）

行政コスト計算書（PL）

●1 年間に提供された、資産形成に結びつかない行政サービスに係る費用と、その行政サービスの直接の対価として得られた収益を対比させた財務書類です。

経常費用、経常収益①……55 億円

【内訳】

・人件費……10 億円

（職員の給与、退職手当など）

・物件費等……24 億円

（施設の維持管理費、物品購入費、使用料など）

・その他の業務費用……1 億円

（起債償還利子、村税還付金など）

・移転費用……23 億円

（社会保障経費、補助金、特別会計への繰出金など）

・経常収益……3 億円（マイナスで積算する）

（行政サービスに対する受益者負担金、財産貸付収入など）

臨時利益、臨時損失②……2 億円

純行政コスト（①＋②）……57 億円

資金収支計算書（CF）

●1 年間の行政活動を、資金（現金）の流れから見たもので、3つの活動（業務活動収支、投資活動収支、財務活動収支）ごとに表した財務書類です。

期首（平成 27 年度末）歳計現金残高③……4 億円

当年度歳計現金増減額④……0 億円

【内訳】

・業務活動収支……4 億円

（支出：人件費、物件費、社会保障給付費など 収入：村税、地方交付税、国県支出金など）

・投資活動収支……△5 億円

（支出：公共資産整備、基金積立など 収入：公共資産整備充当国県支出金、基金取崩しなど）

・財務活動収支……1 億円

（支出：村債償還金、リース代など 収入：村債）

期末（平成 28 年度末）歳計現金残高……4 億円（③＋④）

純資産変動計算書（NWM）

●貸借対照表の純資産が、1 年間にどのように増減したかを表す財務書類です。

期首（平成 27 年度末）純資産残高⑤……306 億円

当期変動額⑥……△6 億円

【内訳】

・純行政コスト……△57 億円

・一般財源・補助金等受入……51 億円

・その他……0 億円

期末（平成 28 年度末）純資産残高……300 億円（⑤＋⑥）

※表示単位未満は、切上げ又は切下げにより書類間が整合するように調整している。